

四日市の
地区自慢

日永

日永 東海道との絆“昔も今も”

日永地区は、市の南部に位置し、港を望める南部丘陵公園を背に、国道1号、近鉄内部・八王子線など交通網が発達し、工業や商業の営みも活発で、大変住みやすいまちです。

太古からの歴史・文化の伝承と人々の絆の強さは、日永の元気の源であり、自慢です。

復活「日永梅林」

江戸後期に登城山一帯に植栽され、戦前には、約9千本の梅が咲き誇り、内部・八王子線（当時の三重軌道）に乗って、全国から花見客が押し寄せたと記録されています。

戦時下にその姿は消滅しましたが、再現を願い平成11年3月に地元有志により『日永梅林・登城山』を復活させる会を発足させました。現在では梅まつりなど年4回の祭典と育樹活動に約700人の会員（地元企業を含む）が参加しています。



植樹の様子（平成24年10月）



今年の模様が市のホームページからご覧になれます。
ちゃんねるよっかいちVol.705「つんつくおどり」

400年祭に向けて「日永つんつくおどり」

起源は、元和6（1620）年に天白川の築堤工事などの地固めの時の動作を踊りや歌に表現したもので、太鼓や笛など囃子に合わせて円陣を組み踊っていたと伝えられています。

昭和31年2月に市無形民俗文化財の指定を契機に「日永つんつくおどり保存会」が結成されました。2020年の400年祭に向け、イベントとして、毎年、東海道上で「つたえよう 日永つんつくおどり」を開催しています。

旅人の歴史発見「東海道日永郷土資料館」

日永地区は東海道を中心に、江戸時代には、四日市宿と石薬師宿の「間の宿」や、伊勢参宮道との分岐点「日永の追分」があり、交通の要衝の地として栄えました。また、永餅、うちわ、足袋といった名品や人々

の営みの郷土資料などが多いこの地区は、貴重な文化財の宝庫です。かねてより後世に語り伝えようと活動していた日永郷土史研究会が中心となり、昨年11月に開館しました。

■開館日時

水・土・日曜日、祝日（年末年始除く）
9：00～16：00

■アクセス

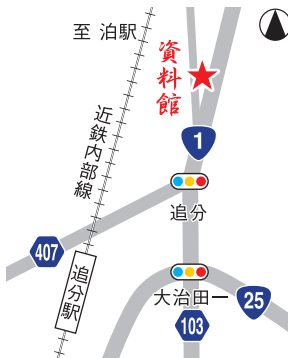
内部・八王子線 追分駅または泊駅下車徒歩5分



東海道日永郷土資料館（外観）

問い合わせ先

日永地区市民センター
(☎345-3197 FAX349-0043)



有料広告掲載欄

『交通事故・借金問題・相続・離婚・不動産・その他法律問題』で お困りではありませんか？

「安心してご相談ください！
お一人お一人私が丁寧に
対応します！」

近鉄四日市駅から徒歩1分！南改札口(東口)すぐ！

借金
借金で困っています。会社やお店はどうすれば…？

交通事故
保険会社の対応に納得できません。これからの交渉はどうすれば…？

相続
遺産分割の話合いが難しいです。

離婚
調停や裁判の対応の仕方がわかりません。

尾市法律事務所

◆土曜日や夜間も対応可(要予約)◆
☎《予約制》059-350-2080
 弁護士 尾市淳二 (三重弁護士会所属) (財)日弁連交通事故相談センター三重県支部相談員・鈴鹿市役所市民法律相談担当弁護士

◆交通事故・借金問題のご相談は無料です◆
 ◆一般法律相談料(初回)30分 5,000円(税別)◆

本欄は広告であり、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。